

サトキマダラヒカゲ

Neope goschkevi tshii



種名

分類

タテハチョウ科

形態

前翅長 26～39mm。地色は黄褐色、黄色斑をもつ。一見ヒョウモンチョウ類(タテハチョウ科)と似るが、斑紋が異なる。次種とはかつて同種とされ、区別が難しい。おもな相違点は、後翅裏面の基部にある3つの紋が直線上にならぶ。裏面の地色は次種より明るく、眼状紋は小さく円型。翅表の黄色紋が発達する。前翅長の亜外縁下の黄色斑の中に褐色点をもつ。

分布

北海道(利尻島・奥尻島を含む)、本州(伊豆大島を含む)、四国、九州、

出現期

寒冷地では、年1回、7~8月に発生。一般に年2回、春型は5~6月、夏型は7~8月に見られる。越冬態は蛹。

生態

平地から低山地の雑木林に棲む。クヌギなどの樹液を吸い、腐果にも集まる。樹幹によくとり、夕方活発に飛ぶ。湿地で吸水する。

食樹

ササ科のメダケ、ネザサなど。

幼虫
(幼生期)

体長 45mm。黄褐色で、胴部が太い。

出現時期

(月)

—

—

—

—

5

6

7

8

—

—

—

100

その他

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チヨウ